

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

本区は学校選択制を採用していることもあり、様々な小学校から中学校へ生徒が入学してくる。そのため、A中学校では、中学校入学当初の「居場所づくり」を重要視し、第1学年を対象に「学びの体験学習」を実施した。これは、「学びの体験学習」では、複数人で楽しみながら取り組めるレクリエーションなどを行い、「自分」をより深く知るとともに、「他者」を理解していく取組を実施した。「学びの体験学習」を実施したことにより、休み時間の過ごし方に戸惑っていた生徒の多くが、積極的にクラスメイトと話せるようになっていた。

【取組2】(B中学校)

1学年の学級数が1クラスしかないA中学校では、「居心地の良い学級」そして「生徒間の良好な関係性」の構築を図るため、「上野公園オリエンテーリング」を実施した。班ごとに上野公園を回り、チェックポイントを見つけて写真に収める活動である。写真を撮れば撮るほどポイントを獲得することができ、たくさんのポイントを獲得したチームが「勝ち」というルールになっている。ゲーム性あふれる本活動を通して、生徒たちは主体的かつ積極的に班員と関わることができていた。

オリエンテーション以降、生徒間の関わりも増え、入学当初の緊張した姿はすっかりなくなっていた。



【取組3】(B中学校)

B中学校では、朝学習の時間に「給食の食材にふれる体験学習」を実施した。これは、とうもろこしの皮むきを体験し、粒やひげの様子を観察したのち、給食時に食べる活動である。体験学習は、理科において雄花、雌花に関する学習を取り扱うタイミングで設定されており、より学習内容を深めることができるようになっている。熱心に体験学習及び理科の授業に臨む生徒の姿が印象的であった。

【取組4】(C中学校)

「校内別室の在り方」、「不登校対応巡回教員の役割」等をテーマに、校内研修を行った。校内別室については、「卒業まで生徒が過ごしても良い場所である」という点について重点的に説明し、教職員の理解を深めた。また、教員が不登校巡回教員の役割について、「どこまで何をすることができるのか」を協議しながら丁寧に説明し、共通認識をもつことができた。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（D中学校）

D 中学校では毎週 1 回支援会議を開催している。参加者は、管理職や特別支援教育コーディネーター、SC、SSW、不登校対応巡回教員、支援員、各学年の教員等である。使用する資料には、不登校生徒の登校状況や様子、教員とのやりとり等が記載されており、学校全体として生徒の状況を把握できるようにしている。

アウトリーチによる支援（B中学校）

大型連休明け以降に不登校になった生徒に対して、担任と不登校対応巡回教員が家庭訪問を行った。家庭訪問では、保護者と話をすることはできたが、生徒本人とは会うことができなかった。そのため、帰校してから、家庭訪問時の状況等を養護教諭や SSW 等に共有し、今後の方針及び対応の検討を進めた。

校内別室における支援（A中学校）

A 中学校では、教員らの協力のもと、校内別室における学習支援を行っている。具体的には、校内別室にて、数学科や英語科、国語科の教員によるミニ授業を実施している。また、技術・家庭科の制作活動を校内別室内で行っている。校内別室に登校している生徒の大半は長期間の不登校経験があり、学習に付いていけないと悩むことが多い。そのため、ミニ授業を受けたり、制作活動を行ったりすることを通して、生徒たちは学習に対して前向きになることができていた。これらの取組を、教室で授業を受けるための「練習」としていきたい。

デジタル機器を活用した支援（E中学校）

集団が苦手な生徒のために、一人 1 台端末を利用し、授業をリアルタイム配信している。生徒は画面越しにノートを取り、自分の学習に役立てている。校内別室にてオンライン授業を受けている生徒は、「自主学习だけではどうにもならないところがあった。オンライン授業を受けることができて助かる。」と話していた。

関係機関との連携（D中学校）

長期欠席している生徒宅へ、SSW 及び校内別室担当の教員と家庭訪問を行った。保護者及び当該生徒との面会はできなかったため、学校の様子や不登校対応巡回教員等について記した手紙をポスト投函した。引き続き、家庭訪問等を行っていくとともに、関係機関と協力を図っていく。

成 果

校内別室の環境及び受入体制が整ってきたことに伴い、多くの不登校生徒が校内別室に登校できるようになった。そして、学級とのつながりを生み出すことができた。

課 題

不登校生徒の登校を安定させるべく、オンライン授業等、校内別室で取り組むことのできる「活動」を増やしていく。